

豊川で再確認のヒロクチカノコガイ

松岡敬二*

Rediscovery of *Neritina violacea* (Neritidae) from the Toyogawa River,
Toyohashi City, Aichi Prefecture

Keiji Matsuoka*

ヒロクチカノコガイは、南方系のアマオブネガイ科の腹足類である。後期更新世に出現し、千葉県まで分布を拡大していた(堀越, 1962)。

千葉県からは絶滅し、三河湾はヒロクチカノコガイの周辺分布域の東限にあたっている(松岡, 2008)。三河湾の奥部に位置する豊川では、1970年代初めまで生息していた(愛知県科学教育センター, 1967)。しかし、現在では絶滅したと考えられていた(松岡ほか, 1999; 松岡ほか, 2008)。

本種は、愛知県内では生息場所が減少し、愛知県レッドデータリストでは絶滅危惧Ⅱ類(VU)に分類されている(愛知県環境調査センター編, 2009)。

今回、豊川からは絶滅したと考えられていたが、40数年ぶりに生貝を1個体確認したので記録しておく(第1図)。付着していた礫には、イシマキガイ、マガ

キが見られた。

なお、確認場所は個体群の回復を見守るために、詳細は省いた。

引用文献

- 愛知県科学教育センター, 1967. 研究報告第72号, 愛知の動物. 愛知県科学教育センター, 222 p.
- 愛知県環境調査センター編, 2009. 愛知県の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックあいち2009-動物編-, 愛知県環境部自然環境課, 名古屋, 651 p.
- 堀越増興, 1962. 日本周辺の浅海系海域における底棲生物の海洋生物地理-特に沿岸水海域と暖帯(warm temperate zone)について-. 第四紀研究, 2 (2-3): 117-124.
- 松岡敬二, 2008. 三河湾奥部の河川感潮域貝類. 愛知大学総合郷土研究所紀要, (53): 169-181.
- 松岡敬二・木村妙子・木村昭一・三谷水産高等学校増殖部・山口啓子・高安克己, 1999. 豊川下流域の貝類相. 豊橋市自然史博物館研報, (9): 15-24.
- 松岡敬二・寺本和子・鳥居和孝・近藤貴夫, 2008. 豊川下流域の感潮域貝類. 豊橋創造大学短期大学部研究紀要, (25): 35-38.



第1図. ヒロクチカノコガイの生貝.

撮影日: 2009年3月23日, 確認場所: 豊川下流.

* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi 441-3147, Japan.

原稿受付 2011年11月22日. Manuscript received Nov. 22, 2011.

原稿受理 2011年11月25日. Manuscript accepted Nov. 25, 2011.

キーワード: ヒロクチカノコガイ, 再確認, アマオブネガイ科, 豊橋市, 愛知県.

Key words: *Neritina violacea*, rediscovery, Neritidae, Toyohashi City, Aichi Prefecture.